



たった一人のためにでも、世界をつなげたい。

CWS JAPAN

Church World Service

NEWSLETTER No. 45



ベトナム防災事業にてオンライン研修を実施しました！

CWS Japanは今年よりベトナム北部の山岳地帯にて防災事業に取り組んでおり、洪水・土砂災害被害が多発するトゥエンクアン省チエムホア県において、地方政府のリスクアセスメント並びにコミュニティの自主防災計画策定支援の能力強化を通じて、地域の包括的な災害対応能力を向上させることを目指しています。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大により、当団体スタッフの出張は自粛している状況ですが、ベトナム側は1月の早い段階から渡航制限等を行った事で、感染状況は落ち着いており、Face to Faceのワークショップも許可されるほどになりました。よって、現地側は集合ワークショップの形態を取り、日本側の講師陣はオンラインで参加する研修スタイルを試しています。

第一回目は6月8・9日に実施し、災害イメージの共有、リスクの特定、災害種の定義やメカニズム、リスク評価手法の紹介、等高線マップによる地形判読等を研修しました。天然資源環境省（MONRE）、省農業農村開発局（DARD）、人民委員会、学校教師、タントラオ大学等から約20名が参加し、熱心に災害リスク分析手法について学びました。これらの参加者と共に、しばらくはオンラインでの関わりが続きますが、日本の災害リスク評価手法、警戒区域設定、リスク・コミュニケーション等の教訓を伝え、自分たちが守りたいものを守る力に繋げていければと考えています。

（文：事務局長 小美野剛）

（オンライン研修の様子。日本側はオンラインで参加しています）



2020年6月発行

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、ご理解をいただき、ありがとうございます。

Facebook
twitter
instagramでも
情報発信しています！

最後のページを
ご確認ください☐

特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

✉ public@cwsjapan.jp
☎ 03-6457-6840

パキスタン/害虫被害緊急支援に係る在パキスタン日本国大使とパキスタン国家災害管理庁長官の会合

2020年6月9日、在パキスタン日本国大使松田邦紀氏と国家災害管理庁（NDMA）長官アフザル氏との間でCWS Japanによるサバクトビバッタ駆除支援に係る会合が行われました。CWS Japanによる[特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム](#)の助成金を活用した「インド州害虫被害被災農家に対する生計回復能力強化のための緊急キャッシュ配布および害虫被害軽減のための薬剤供与支援」に対して、NDMA長官より、日本からの支援は非常に有り難いとお言葉を頂きました。同事業は現地パートナー団体である[Community World Service Asia \(CWSA\)](#)との協働事業で、CWSAからは現地における円滑な支援活動の実施や各ステークホルダーおよび裨益者との信頼関係構築などの面で大きな協力を得ています。

同国では新型コロナウイルス感染症の猛威が収まらないうちに、バッタの被害を被っており、当該被害への対策が緊急に必要とされていました。6月下旬にはイランやオマーンからのバッタの第二波がパキスタンに襲来、また7月下旬にはアフリカからのバッタの第三波の襲来が予測されています。更にインドに到達したバッタが9月頃にパキスタンに舞い戻ってくる可能性もあり、第四波、第五波、第六波がパキスタンに襲来するという脅威があることがわかっています。



（会合の様子。左:国家災害管理庁（NDMA）長官アフザル氏。右:在パキスタン日本国大使 松田邦紀氏。）

以上のことから、NDMAが主導して実施している同バッタの駆除が非常に重要であり、今後の産卵を押さえることができれば2021年における同バッタ被害は、最小限に押さえることができるものと考えています。



（同国で多くの作物に被害を与えているサバクトビバッタ @Manoj）

現在、同国における新型コロナウイルス感染症の死者は約3千人ですが、バッタによる食糧危機によるパキスタン国内の死者は、その10倍以上とも言われており、NDMAは今後バッタ対策を優先して取り組む姿勢です。

CWS Japanも引き続き、CWSAとともに連携しながら、安全第一でタイムリーな支援を遂行してまいります。

（文：プロジェクト・オフィサー
西澤 紫乃）

新任スタッフの紹介

はじめまして。6月からCWS Japanの一員となった五十嵐豪（いがらし ほう）です。

これまで、東日本大震災や熊本地震といった日本国内の自然災害だけでなく、フィリピンの台風やハイチの地震、アフリカの角の干ばつなどの海外の災害や、アフガニスタンやシリア、南スーダンの人道危機における難民支援や復興の支援の現場にかかわってきました。

また、カンボジアやスリランカなどでは障がい者の支援にかかわってきたことから、自然災害や紛争を問わず、人道危機の際に支援から取り残されがちな「社会的に脆弱な人々に配慮した支援」を心がけています。障がいだけでなく、高齢者、子ども、女性、性的マイノリティ、貧困、人種、民族、カースト、宗教、外国籍や無国籍、難民など、脆弱になってしまう理由は様々ですが、一人ひとりの事情と状況にあった支援を心がけています。

緊急支援というどうしてもスピードと効率性が重視されがちですが、「被災者」を一律に支援するのではなく、多様性を持った「人間」を支援するのが人道支援であるという根幹の信念を失いたくありません。こうした思いから、CWS Japanの価値観に共感し入職しました。

家族は妻と1歳半になる娘がいますが、去年は約9ヶ月の育児休暇を取得しました。様々な子育ての苦労と喜びを実際に経験し、「ライフワークバランス」という言葉を今まで以上に真剣に考えるようになりました。この言葉に対して、どちらか一方を犠牲にしているようなイメージを持っていたのですが、「家族」に誇りを持てる「仕事」をすることだと今は考えています。

被災者や現地のパートナー、CWS Japanの仲間たち、そしてそれを支援してくれる皆様と一緒に、より良い世界に変えていけるように邁進していきます。温かい応援をどうぞよろしくお願いいたします。

(文：プログラム・マネージャー

五十嵐豪)



ジャパン・プラットフォームの 共同代表に再任いたしました

2020年5月28日に開催された特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF) 総会・理事会において、JPF共同代表理事に再任致しました事をご報告申し上げます。

今後もより一層日本の緊急人道支援の拡大・深化に貢献できるよう、取り組んで参ります。

(文：事務局長 小美野剛)



CWSJapan



@Japan_CWS



cws_japan

日々の活動や事業の詳細や支援先の様子などを写真(ときどき動画)でお伝えしています！